

珍しい変化朝顔「宝蓑葉」の出現

井上尚子・岡本孝・佐々木修

はじめに

栽培記録 36号（2015年3月発行）に掲載した広島市植物公園で調査中の変化朝顔3系統のうち、仮称「黄葉林風」としたシリーズについて、2015年に試験播きをした結果、非常に珍しい「宝蓑葉」が出現したので報告する。小川（1981）によれば、宝蓑葉は「林風」、「笹」、「立田」（遺伝子名。以下、この遺伝子の突然変異による形質を斜体で記す）の突然変異による三形質が結合したもので、これに他の形質を組み合わせると一層面白いものができる。葉形では最も高級で特徴がある。

（仮称）黄葉林風シリーズの誕生

広島市植物公園が元々保有している系統の中で林風、笹、立田の三形質が結合したものは存在しなかった。昭和57年に小川信太郎氏から寄贈された系統の中に林風の系統（整理記号 Y雪B-151など）があったが、「牡丹」の変異が抜けていたために観賞価値がないと判断され、処分された。しかし過去何度も試験播きはしていたので、それら由来の遺伝子が虫による交雑などによって他の系統に導入された可能性がある。2008年頃、黄葉と立田と林風の3形質が結合したものに牡丹が入った系統が出現した。「林風」という名前どおり風にそよいだような形の黄緑色の葉が涼しげで、桃色系の花色、単純な切咲の花形もチャーミングと感じたので、「黄葉林風」と仮称し、これを維持することにした。



図1 黄葉林風シリーズの展示。後ろの鉢は、つるを団扇の骨に巻きつけてある（2012年8月26日）

（仮称）黄葉林風シリーズの発展

「黄葉林風」シリーズは、2012年までは「黄葉林風立田葉桃（淡紫）切咲牡丹」が出現する出物系統として維持した（図1）。ところが2013年秋に試験播きをしたところ、これまで見たことがない形の葉が出現した（図2）。



図2 試験した姉妹12株の葉を各株から1~3枚取って並べた。△で示したのが、園ではじめて出現した新形の葉

2014年には、2013年秋に試験播きした上述の種子の残りを播種した。その結果、姉妹株でもいろいろな形質の組み合わせで多様な株が出現した。その多様性の面白さを来園者にも感じていただけるよう、2014年の変化朝顔展では、姉妹株を同じ棚に並べて紹介した。この時の株を以下に紹介する（図3~6）。

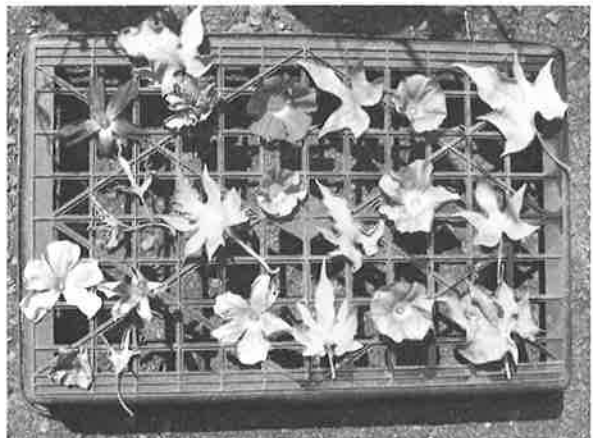


図3 2014年7月23日に開花した姉妹株の花と葉を並べた

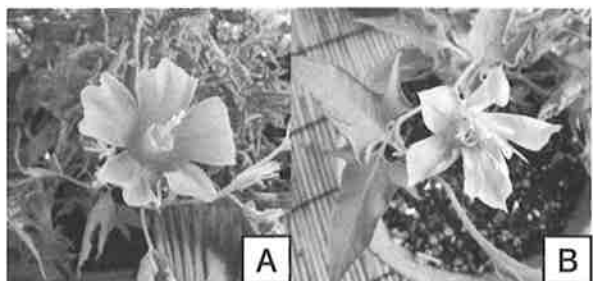


図4 A：車咲、B：雀咲牡丹

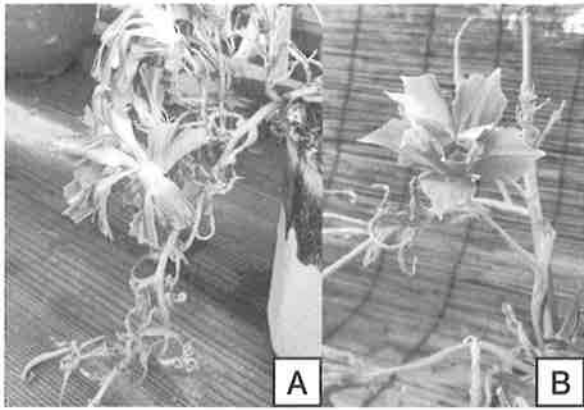


図5 A:黄林風打込芝舟龍葉淡紫車咲牡丹(前号で間違っ
て雀咲としている)、B:黄林風打込縮緬蜻蛉笹葉雀咲牡丹

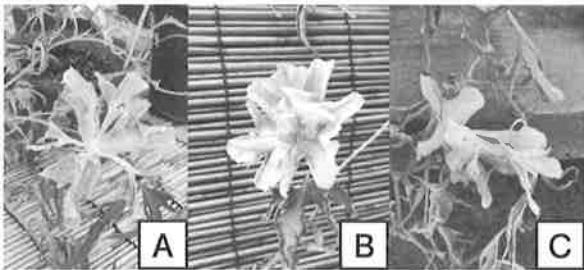


図6 同じ株の花でも、その時々で形は変わる。これは
車咲牡丹に、何らかの修飾変異が合わさった株。
A:8月18日、B:8月29日、C:10月12日撮影

2014年に育てた黄葉林風シリーズのうち27株
から種子を採集し、2015年1月から3月にかけて
大温室2階の作業通路北側において、このう
ちの20株分の試験播きを実施した(図7)。その
結果、珍しい形のものが出現した(図8)。



図7 大温室2階作業通路北側でのアサガオ試験播きの様子

2015年1~3月に試験播きした18系統のうち
1系統(ここから先、系統というのは一つの株か
ら採集した姉妹関係の種子のこと)は変化が少
なかつたので捨てたが、残りのものはそれぞれ
気になる変化が見られたので、2015年5月に改
めて播種した。冬に試験播きを見合わせていた
種子の在庫数が少ない4系統も追加して、合計
21系統の調査を行った。

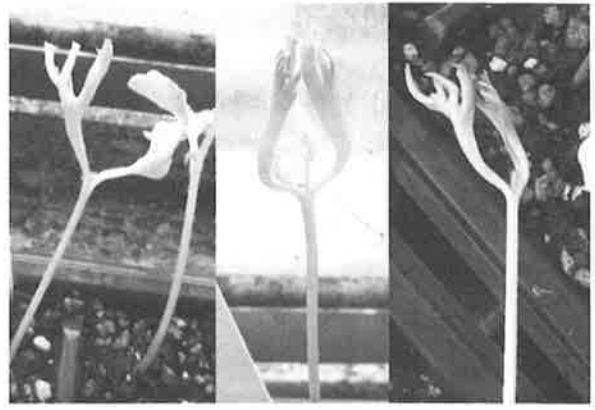


図8 2015年の冬に試験播きして出現した珍しい形の実生

種子の在庫が少ない系統については、種子採
集ができるように1ポットに1粒ずつまき、種
子の在庫が多い系統については、1ポットに3粒
播種して「試験播き作り」(前号の栽培記録参照)
をした。その結果、宝蓑葉、雨龍葉、茶系統の
立田葉切咲牡丹、車咲牡丹など、観賞価値があ
る系統があったので、現時点で試験播きをして
いない5系統を含め22系統を保存している(図9、
図10)。



図9 黄尾長葉淡桃切咲(桜咲)牡丹



図10 蓑雨龍葉

宝蓑葉の出現

2015年冬と夏の2回にわたる調査によって、2014年採集の黄葉林風シリーズ27系統のうち2系統で「宝蓑葉」が確認できた。その2系統の整理記号は、「林風④」と「林風⑩」である。当初は「林風⑩」も宝蓑葉と考えたが、姉妹株を検討した結果、宝蓑葉の基本的な形質の組み合わせ（林風+笹+立田）（小川1981）のうち「笹」が含まれなかったため、宝蓑葉ではないことが判明した（図11～18）。

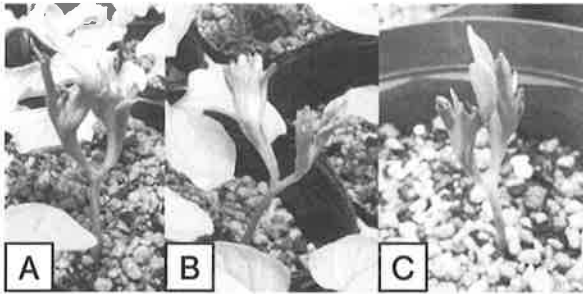


図11 A、Bは宝蓑葉（A：林風④、B：林風⑩）、Cは名称不詳（C：林風⑭）



図12 林風⑭の苗。立田、林風、打込等が認められる

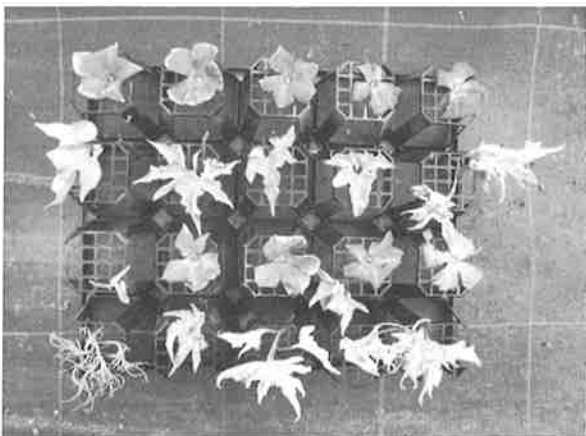


図13 林風⑭の花と葉。笹、獅子は見当たらない



図14 林風⑩の苗。□の中が宝蓑葉。出現率1/24



図15 林風④の苗。□の中が宝蓑葉。出現率1/24



図 16 「林風⑩」の試験播き作り。手前の株が宝蓑葉



図 18 「林風④」の試験播き作りの展示風景。手前の株が宝蓑葉。行灯の下部と上部でその花が咲いているのが、細切采咲で目立たない

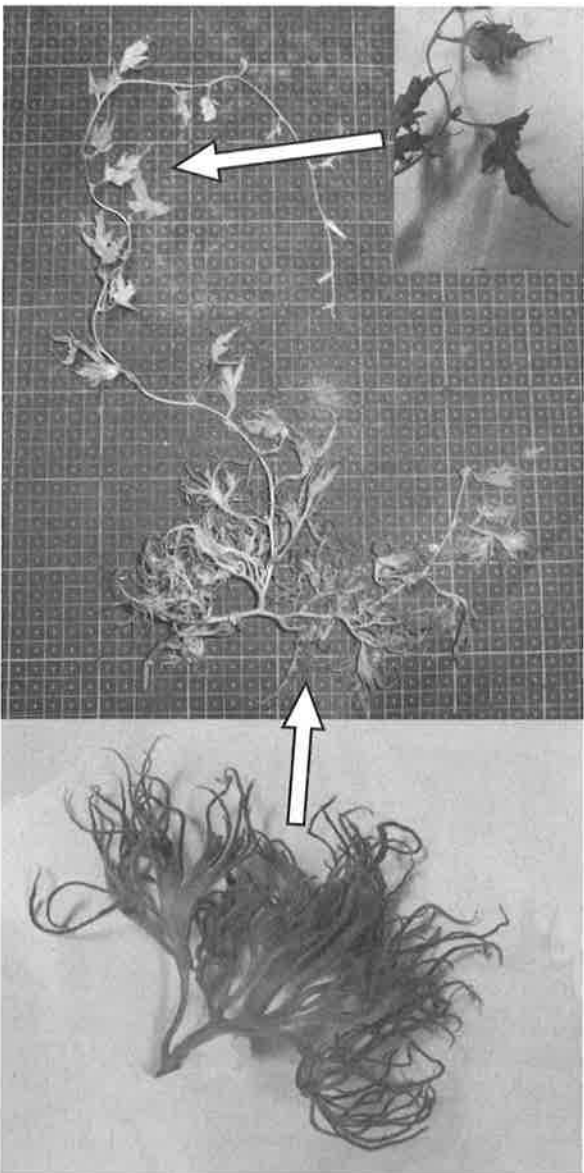


図 17 「林風⑩」の宝蓑葉の株のつる。つるの上部では林風の発現の程度が弱くなるようで、葉の形がずいぶん変わった印象となる。

おわりに

宝蓑葉は、小川信太郎氏以降、栽培する人があまりいなかったため、今回は日本における 30 年ぶりの出現と言ってよいとのことであった（九州大学 仁田坂英二博士、千葉県 伊藤重和氏私信）。宝蓑葉が出現したことは、著者らの意図的な交配による結果ではなく、虫による自然交配の結果であるが、今後の展示に活用できる面白い変化朝顔なので記録した。しかし、つるの成長に伴い宝蓑葉の特徴が弱くなったり、複葉状態になったりする（図 17）のがどのような遺伝子の働きによるものなのか、著者らはよく理解していない。また若名（1905）によれば、宝蓑葉には、八房宝蓑葉、八房糸宝蓑葉、抱八房宝蓑葉、岡宝蓑葉、唐草宝蓑葉、香の煙宝蓑葉、若名宝蓑葉、土蜘蛛宝蓑葉などの種類があり、絵合わせで当園のは八房宝蓑葉あるいは香の煙宝蓑葉だと思われるが、これらは、今後の研究課題である。

引用文献

- 井上尚子 2015「江戸の園芸体験講座～変化朝顔～」
開催記録と変化朝顔に関する新たな取り組み。
広島市植物公園栽培記録 36:7-11.
- 小川信太郎 1981 写真集 昭和の変化咲き朝顔。
215pp. 中日新聞本社、名古屋市。
- 若名英治 1905. 牽牛子葉図譜. 38pp + 14pp. 奨農園、
千葉県山武郡日向村。